ルイビル大学
University of Louisville

●学部学生 15,830人　●大学院生 6,633人　●教職員 7,016人　●留学生 1,076人
ホームページ　http://www.louisville.edu/
交流協定締結年月日：1997年9月2日　　主管学部：法学部

国際交流の特色

ルイビル大学は、ケンタッキーの最も大きい都市部に位置する、州立の研究大学である。1970年に現在の大学システムに統合される前の数十年の間は、自治体で運営される公共機関であった。大学には、3つのキャンパスがある。 メインキャンパスである274エーカーのベルクナップ・キャンパスは、ルイビルの繁華街から3マイル離れたところにあり、 11の学部とスクールで構成する、7つの大学の建物を有している。健康科学センターは、ルイビル中心街の医学の複合体であり、大学の健康に関連する諸事業体とルイビル大学病院がある。東ジェファーソンカウンティーに位置する243エーカーのシェルビイ・キャンパスには、全米犯罪防止研究所と情報技術資源センターがある。今後も、定期的にルイビル大学より教授を招聘して対面での講演を実施していく予定である。

交流実績（令和４年度～令和６年度）

受入・派遣＼年度	R4	R5	R6
学生の受入	0	0	0
学生の派遣	0	0	0
研究者・職員の受入	0	0	0
研究者・職員の派遣	0	1	0
オンライン交流参加者（本学）	0	0	0
オンライン交流参加者（相手機関）	0	0	0

教員からの声

ルイビル大学ロースクールは、わが国憲法学が範としてきたアメリカ憲法学に重要な理論を展開したルイス・ブランダイス氏（Louis Brandeis）の名を冠した由緒あるロースクールである。これまで本学から、中山充名誉教授、植松真生教授、肥塚肇雄教授、小澤久仁男准教授、柴田潤子教授が訪問している。

ルイビル大学からはRussell L.Weaver 教授をお招きして、本学部と大学院で特別講義と講演を行っていただいている。2015年度には「アメリカにおける法曹養成」と題し、アメリカでの法律学の学び、アメリカの司法制度について講演いただいた。2017年度には「From Gutenberg to the Internet」、2018年度には「現代社会とテクノロジー」と題し、アメリカの政治・選挙においてインターネットが活用されている現状やその言論の自由の在り方について講演、レクチャーをいただいた。講演後には受講者と教員の間で活発な議論を行い、僅かな時間ながらも現代アメリカの法について肌で触れることができた。このように日本・香川にいながら、アメリカのロースクールの授業を体験する大変貴重な機会となっている。

2018年2月には、当時の同大学の研究科長であるコリン・クロフォード教授が香川大学法学部を訪問し、当時の学部長である三野靖教授と、両大学の今後の研究者間・学生間の交流について様々な意見交換を行った。さらに、2019年7月には、Manning G.Warren教授が当時の学部長である三野靖教授を訪問し、2023年4月には、Luke Milligan教授による「政府による捜索と安全が保障される権利ーGovernment searches and the right to be secureー」というテーマでの講演会が開催されており、交流を深めている。